

キャンピングカーは「男のロマン」から「男女の調和」へ

# 女性が求める キャンピングカーライフ

夫婦円満の秘訣は、旅にある。

家族の絆の確認も、また旅にある。

それは、旅が、日常生活からの脱却をもたらすために、  
それまでの人間関係を新しく見直すきっかけ与えてくれるからだ。  
そのとき、夫婦は、当たり前すぎてお互いに見逃していた、  
それぞれの魅力を再発見するかもしれない。

子供は、親の思わぬ優しさに触れ、心をおおらかに開くかもしれない。

親は、子供のひたむきさに接し、新たなエールを送るようになるかもしれない。

そんな心の通い合う旅を、家族に与えてくれるのが、キャンピングカー。

今、そんな「家族の触れ合い」をキャンピングカーに求める女性が増えている。

彼女たちは、男性以上に、キャンピングカーが「家族の交流」を深める乗り物であることを理解し、  
積極的に活用することに目覚めてきた。

今までは、キャンピングカーの楽しみを奥様や恋人に伝えるのは男性の役目であったが、  
その男性たちを上回る勢いで、キャンピングカーの効用を肌で感じる女性が増え始め、  
それがキャンピングカー市場を大きく変えようとしている。

キャンピングカーは、「男のロマン」から「男女の調和」を実現する乗り物として、  
新しいテーマを背負うことになった。

この号では、「女性が求めるキャンピングカーライフ」の実状を、  
アンケート調査やユーザーインタビューなどを通して追求する。

Woman's Campingcar Life

# 「女性から見たキャンピングカー」 調査からうかがえる奥様方の心模様



料理指導 木村元一

日本RV協会は昨年暮れに、「くるまクラブ」に所属するキャンピングカーユーザーのうち主婦層および女性オーナーを対象として、女性とキャンピングカーのつながりを調べるためのアンケート調査の結果を公表した。

この調査は、キャンピングカー選びの基準やその使い方に対し、男性と女性の意識の違いを調べようとしたもので、24項目が設定され、1,388件の回答が寄せられた。

このようなキャンピングカーをテーマにした本格的な女性アンケートははじめての試みであり、業界にとっても貴重なデータとなった。

アンケートから見た女性ユーザーの年齢層は40歳代(31.1%)と50歳代(30.1%)に集中し、その二つの世代で61.2%を占めることが分かった。

また「パート及びアルバイト」と「会社勤務」を含め、なんらかの仕事を持っている女性が44.5%に及び、専業主婦の39.2%をわずかに上回った。

キャンピングカーに興味を持ったきっかけを尋ねると、「ご主人が話題にするようになったから」という答えが圧倒的に多く、全体の58.4%を占めた。

次に多かったのは「キャンプ場などで見かけて、便利そうに思えたから」という答えで、14.6%だった。

以下、「テレビや雑誌などで見て面白そうに見えた」(7.9%)、「友人・知人が持っていたり、よく話題にしていたから」(5.8%)という順になった。

また、普通の乗用車で「車中泊」を繰り返しているうちに窮屈さを感じるようになり、それをきっかけにキャンピングカーに関心を持つようになったという答えも目立った。

面白いところでは、「私が知らない間に、主人が勝手に購入していた」、「主人がこっそり準備し、いつの間にか(旅に)連れ出された」という“巻き込まれ型”の購入であったことを告白した女性もいた。

キャンピングカーを持ってからご家族(夫婦)の話題に変化が生じるようになったかどうかを尋ねたところ、「主人や家族との間に『旅』や『趣味』の話題が増えた」と答えた

女性は57.9%に達し、続いて「キャンプや旅行で知り合った人々との交流が話題になった」と答えた人が21.3%もいた。

また、キャンピングカー旅行中に「自分たち夫婦は相性が悪い」と思ったことがあるかどうかを尋ねると、「まったくない」という回答が55.3%。「ときどきある」という回答が39.5%。「よくある」という答が4.1%だった。

どのような場合に、夫婦の相性が悪いと感じたかを尋ねると、「旅行中に、見物したり買い物したりする興味の対象が合わない」(40.0%)、「時間のテンポが合わず、立ち寄り湯の待ち時間などをめぐってイライラする」(24.3%)などという声が寄せられた。

また、夫人の立場からキャンピングカーを選ぶときの決め手となったものを複数回答で尋ねたところ、一番多い答えは「サイズ」(58.6%)だった。それとほぼ同じぐらいの比率(57.8%)で、「価格」という答えが浮上した。3番目は「装備類の充実」(45.0%)、4番目が「デザイン」(27.5%)、5番目が「乗車/就寝定員」(27.4%)だった。

多くの夫人は、キャンピングカーを選ぶときに、まず「サイズ」と「価格」を検討し、そこである程度の候補車を選んでから、「装備類」の充実度を比較していくというプロセスを取っている様子が見られた。

女性が使いやすいキャンピングカーの機能として何が必要か? という設問に対しては、「豊富な収納スペース」という回答が半数を超える51.2%に達した。二番目は「個室トイレ/洗面室などの機能」というもので21.7%だった。

それに続き「しっかりしたキッチン機能」(18.2%)、「エアコンやヒーターといった冷暖房機能」(16.6%)という順になった。

上記の回答以外に、「その他」という項目を設けて記述式で答えたもらったところ、特に多かったのは「ベッド機能」に対する意見だった。特にベッドの広さと、ベッド展開が簡単であることを求める声が目立った。

また、自分がキャンピングカーの開発者になったと仮定して、女性が欲しくなるキャンピングカーを開発するときが一番心がけるもの何かと尋ねたところ、下記のような回答が寄せられた。

「装備類を使いやすくして、シンプルな機能に絞る」(45.7%)、

「家庭内と同等の充実した快適装備を確保する」(19.9%)、

「内外装のデザインセンスを高めて、お洒落なものにする」(19.9%)、

「車両サイズをコンパクトなものにする」(17.1%)

この設問に「その他」という項目を設けて自由に書き込んでもらったところ、以下のような女性らしい視点が打ち出された。

「たいていのキャンピングカーには鏡や洗面台のような顔をメイクするスペースがなく、鏡があっても大きくない。また着替えや衣類を掛けておくスペースがない。更衣室の充実と照明へのこだわりは必要だと思う」

「旅が終わったときに掃除と片づけを考えると憂鬱。だから掃除がしやすい構造になっていることが大事」

「長旅したときの洗濯物を干すレールとかロープを張る場所を工夫したい。できれば、下着を干せるような場所も考えたい」

また、「現在の愛車で一人旅をしてみたいか」という設問に対しては、「家族(夫婦)旅行が楽しいので、一人旅は考えたことがない」という答が65.0%に達したが、「たまに家族から解放され、一人旅をしてみたい」(5.7%)、「現在すでに今の愛車で一人旅を楽しんでいる」(1.1%)という答も少数ながら寄せられた。

さらに、記述式の自由回答においては、「もし運転ができれば一人で旅したい」、「自分で自由に運転して、女性だけのキャンピングもしてみたい」という答も散見された。

その一方、「女性だけで旅するときは、セキュリティのことが一番気がかりとなるため、外から破られないような窓ガラスや大音量の防犯ブザーとかSOS機能があるといい」、「機械系は苦手なので、キャンピングカーの調子が悪くなったときは、原因も分からず、直すこともできない。だから一人で乗るには抵抗がある」などという声も聞かれた。



「旅」や「趣味」の話題が増えた」

第1位  
57.9%

わが家にキャンピングカーが来て変わった事は?